

線型代数学周遊 応用をめざして 正誤表

2019.1.19

頁	行	誤	正
p.13	1.12	$b \in A$	$v \in V$
p.23	1.14		つまり, $\dim_{\mathbb{R}} \mathbb{C} = 2$ です. 因みに $\dim_{\mathbb{C}} \mathbb{C} = 1$
p.25	1.12	別の基底である	基底である
p.28	1.-5	$L \in C_0$	$L \in C_1$
p.33	1.13	レニムスケート	レムニスケート
p.35	1.1	定義域と言い,	定義域, $B$ を $f$ の値域と言い,
p.35	1.1	像 (値域)	像
p.35	1.10	(d) $f$ に対して,	(d) 写像 $f$ に対して,
p.37	1.9	右を追加	例えば $\text{Hom}_{\mathbb{C}}(\mathbb{C}, \mathbb{C}) \neq \text{Hom}_{\mathbb{R}}(\mathbb{C}, \mathbb{C})$ となります.
p.38	1.14	実際, $v_1, v_2 \in V$ に対し	実際, $v_1, v_2 \in U$ に対し
p.41	1.-6		字下げ
p.43	1.-6	$\mathbb{R}/\mathbb{Z}a$	$\mathbb{R}/\mathbb{Z}q$
p.43	1.-5	$(x+a)$	$(x+q)$
p.46	1.9	$A^* = A$ に	$A^* = A$ であつ正 <sup>11</sup> に
p.46	脚注		<sup>11</sup> $A \in \mathfrak{B}$ が正とは $A$ のスペクトル (固有値) がすべて正であることです. $A$ のスペクトルに関しては p.139 を見よ.
p.48	1.12	$i(X') = X$	$i: X' \rightarrow X$
p.55	1.4	$V = \bigoplus K e_i, W = \bigoplus K b_j$	$V = \bigoplus_{i=1}^n K e_i, W = \bigoplus_{j=1}^m K b_j$
p.55	1.6	$V^* = \bigoplus K e_i^*$	$V^* = \bigoplus_{i=1}^n K e_i^*$
p.56	1.5	できません.	できませんが, 適当な処理で (1) の両辺は同一視できます.
p.60	1.-10	$f, g \in \text{Hom}_{\mathcal{B}}(A, B),$	$f \in \text{Hom}_{\mathcal{B}}(A, B), g \in \text{Hom}_{\mathcal{B}}(B, C)$
p.63	1.7	$\{s_1, \dots, s_6\}$ の各原子	$\{s_0, \dots, s_5\}$ の各炭素原子
p.66	1.8	例え,	たとえ,
p.77	1.-4		またこの事実は群の制限として $\mathfrak{S}_n$ の $(i, k)$ を固定する部分群 (部分集合で群であるもの) $\mathfrak{S}_n^{(i, k)}$ を用意すれば余因子が表現でき $\epsilon(i, k) = (-1)^{i+k}$ となることから判ります.
p.145	1.11	$n$ 次元直交変換	$n$ 次元直交変換群
p.146	1.6	$\text{SO}(2)$	$\text{O}(2)$
p.146	1.7	$+u$	$+u + Q$
p.146	1.-9	着目したのが $K$	着目したのが $A_K^n$
p.152	1.-6	$S'_a$ に対して	$S'_a$ について
p.153	1.-8	直交した直線	直線
p.155	1.11	$\mathbb{R}^4$ であると	$\mathbb{R}^4$ で記述
p.158	1.12	$\sum_{i=1}^n$	$\sum_{i=1}^m$
10 章		図 10-4,5,6,7,8,9	図 10-3,4,5,6,7,8
	問題 10.1	図 10-4 の (a)	図 10-4 の左図
p.166	1.2	$\frac{\gamma}{\partial_z \gamma}$	$\frac{\gamma}{\sqrt{\partial_z \gamma}}$
p.168	1.6	$\partial_s^3 \psi_{t2} = \partial_s(u \psi_{t2})$	$\partial_s^3 \psi_{t2} = -\partial_s(u \psi_{t2})$
p.168	1.-4	形状である	形状をもつ

頁	行	誤	正
p.171	1.10	可積分条件と理解できます.	削除
p.171	1.15	定まります.	定まります. つまり, 非線型性が線型空間により決定されるのです.
p.172	1.4	$x_{n-1}$ で	$x_{n-1}$ が
p.172	1.4	$x_n = c + \varepsilon$	$x_n = c + \varepsilon$ ( $\varepsilon \neq 0$ )
p.175	1.13	数 $m$ として	数 $m$ を
p.208	1.9	定義 8.7	定義 8.3
p.210	1.12	加群の件	加群の圏
p.210	1.-6	$e^{\sqrt{-1}a}$ となること	$e^{\sqrt{-1}an}$ となること
p.221	1.1	環準同型	単射かつ環準同型
p.221	1.-4	$(H_M, \pi_\rho, v_\rho)$	$(H_M, \pi_\rho, v)$
p.221	1.-1	なす..	なす.
p.226	1.-7	$\iota : (-1, 1) \rightarrow \mathcal{M}$	$\iota : (-1, 1) \rightarrow U \subset \mathcal{M}$
p.230	1.9	$\partial_{x_i}$	$\partial_{x^i}$
p.262	1.-3	$(i - k)$	$(i - k)!$
p.263	1.6	$\mathbb{C}[x, \xi]$	$\mathbb{R}[x, \xi]$
p.265	1.9	Isam	Isham
p.275	1.10	$\varepsilon$ は零を許さない	$ q - p  = 0$ は許さない
p.275	1.-7	$:=$	$=$
p.278	1.-10	$\mathcal{B}_{\mathcal{T}_{X_0}, X_0} = \wp(X) =$	$\mathcal{B}_{\mathcal{T}_{X_0}, X_0} =$
p.280	1.10	測度零集合	測度零集合族
p.280	1.15	$\mu$ の値をゼロにする	$\mu$ の値を適切に定める
p.281	1.1	$g(x)$	$f(x)$
p.283	1.-3	$f, g \in \mathcal{F}$	$f, g \in \mathcal{F}_U$
p.286	1.2	$0X$	$0x$
p.287	1.2	2 元 $X$ ,	2 元 $x$ ,
p.291	1.-13	$f :=$	$f :$
p.291	1.-12	$(\tanh(f(i)) - 1)/2$	$(\tanh(f(i)) + 1)/2$
p.311	1.13	今野紀夫教授	今野紀雄教授
p.311	1.13	井出勇介氏	井手勇介氏
p.311	1.-8	児玉祐二教授	児玉祐治教授